

10月1日から
値上げに!

ことし6月の郵便法施行規則の改正を受け、10月1日から郵便料金の改定が実施されます。
主な郵便料金の変更内容を図表1にまとめましたので、参照してください。

旧料額の切手・はがき類はどうするか

会社では郵便物送付のために、切手やはがき類をある程度の枚数

郵便料金変更時の 対応と留意点

編集部

ことし10月1日から郵便料金が値上がりし、9月2日から新料額の切手やはがき類が発売されます。会社にある切手やはがき類のストックの効率的な使用方法や留意点について解説します。

ストックしていることが多いものです。郵便料金が変わった場合、手元のストックはどうすればよいのでしょうか。

① **郵便局で交換する**

新料額の切手やはがき類は、ことしの9月2日午前9時から販売されます。

旧料額の切手やはがき類を、新料額のものに交換する場合には、その差額と所定の手数料が必要と

なります。

手数料は、1回当たりの交換請求枚数が100枚未満の場合、通常切手やはがき1枚につき、ことしの9月30日までは5円、10月1日以降は6円となります。

差額のほかに手数料がかかるので、慶弔時用の切手やはがき類のストック以外は、新しいものに交換する機会は少ないでしょう。

② **差額切手を利用する**
郵便局では、前述のように新料額の切手やはがき類を販売します(図表2)。

新しく販売される切手の額面を見ると、図表1の太字の部分と対応しているのがわかります。

旧料額の切手やはがき類を使用する際には、差額分の切手を追加することによって、問題なく使用することが可能です。

レターパックライト・プラスやスマートレターの封筒も、新料額との差額分の切手を貼ることで、引き続き利用できます。

9月30日までの切手やはがき等の管理について

旧料額のはがきや切手は、使用できなくなることはありません。

しかし、旧料額のものに加えて

新料額のものもすべて購入しては、毎日の枚数チェック等の管理にも手間がかかります。

ストックしてある旧料額の切手やはがきは、可能なら9月30日までにできる限り使い切ってしまうでしょう。そうすれば、10月1日以降は、最低限の差額切手と新料額の切手やはがき類を購入するだけで事足りります。

そのためには、まず旧料額のはがき類と、図表3の販売が終了される普通切手は、ストックを増やさないようにしましょう。ストックが切れたら、手間はかかりますが、その都度郵便局で購入するのが一番無駄がありません。

とはいっても、会社によっては毎日多量の郵便に切手やはがき類を使用することもあるでしょう。

その場合は、9月30日までのある程度正確な郵便物の使用量を全社で見積もり、必要な切手やはがき類を計算しておきます。

月末は請求書等の発送が多いことと思われます。はがきによる礼状などの発送もあります。前月や前年の状況を確認して、必要な切手やはがき類の金額、枚数を見積もっておきましょう。

そのためにも、メーリングリス

図表1 主な郵便料金の変更内容

(太字は新料額切手の発行有)

種類	重量	9/30まで	10/1以降	差額
定形郵便物	25g 以内	84円	110円	26円
	50g 以内	94円		16円
通常はがき		63円	85円	22円
往復はがき		126円	170円	22/22円
定形外郵便物／規格内 (長辺34cm以内 短辺25cm以内 厚さ3cm以内 重量1kg 以内)	50g 以内	120円	140円	20円
	100g 以内	140円	180円	40円
	150g 以内	210円	270円	60円
	250g 以内	250円	320円	70円
	500g 以内	390円	510円	120円
	1kg 以内	580円	750円	170円
速達	250g 以内	260円	300円	40円
	1kg 以内	350円	400円	50円
	4kg 以内	600円	690円	90円
特定記録郵便		160円	210円	50円
レターパックプラス		520円	600円	80円
レターパックライト		370円	430円	60円
スマートレター		180円	210円	30円

トや掲示板を使って、全社員に郵便料金の変更と対処法について周知することが重要です。切手やはがき類のストック場所に、張り紙をしておくのも有効です。
面倒だと思われるかもしれませんが、そう頻繁に必要な作業では

ありません。会社の全部署に周知し協力を求めることで、無駄を削減していきましょう。

① 10月1日0時以降に「窓口」に

新料金切替時の留意点

差し出した郵便物の料金は？
窓口には差し出した郵便物は、差出日時の特定が可能です。そのため、10月1日0時以降に差し出された郵便物には、新料金が適用されます。

一方、ポストに投かんされた場

図表2 新料額の普通切手

差額対応	新料額対応
16円 22円 26円 40円	85円 110円 180円 270円 300円

図表3 販売が終了される普通切手

9月30日をもって販売終了	郵便局の在庫がなくなり次第販売終了
63円 84円 94円 260円	120円 210円

出典 日本郵便株式会社ホームページを参考に作成

合、その差出日時が特定できないため、10月1日の最先便までに収集された郵便物については、旧料金が適用されます。

② 料金改定前に差し出す往復はがきは、返信部の差出しが料金改定後になる場合、返信部には新料金が適用されるのか？
返信部の差出しが10月1日以降となる場合、新料金（85円）が適用されます。

返信部の差出人が、あらかじめ返信部に新料額との差額22円分の郵便切手を貼付しておくか、返信部を差し出す際に、返信者に差額の郵便切手を貼付してもらう必要があります。

③ 10月1日以降に旧料額の通常はがきを差し出した場合はどうなるか？
旧料金で差し出された場合は、● 料金不足の郵便物として差出人に返される
● 配達する際に受取人が不足分を支払う
● 受取人が不在だったり、支払いを拒否したりすると差出人に返送される
のいずれかになります。受取人に迷惑がかかるので、10月1日以降は気をつけましょう。